

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	乳幼児健診における問診項目の見直し							掲載ページ
								183
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局
		75	千円	0	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課
								子ども家庭局
								子育て支援課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか 乳幼児健診等における発達障害の早期発見の精度を上げ、標準化するため、受診票の問診項目の見直しを行ないます。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	母子保健調査研究事業（小児保健研究会）において、発達障害を早期に発見するための乳幼児健診項目について検討します。また、その結果を踏まえ、関係機関と協議します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標			【活動の状況】
	問診項目の見直しの推進（検討会の設置）		0 回	検討会の実施	1 回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	乳幼児健診の項目を見直すことで、発達障害を早期に発見し、支援に繋がります。そのために医療関係者、大学関係者など専門家と検討会を実施します。 （最終目標と最終年度）						
（最終目標と最終年度）					順調	順調	
（最終目標と最終年度）					やや遅れ		
（最終目標と最終年度）					遅れ		

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害を適切に発見するための乳幼児健診の問診項目等について、母子保健調査事業の中で行っている研究結果等を踏まえながら関係機関と検討することが重要と考えています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	効果的に実施できるよう関係機関と連携する必要があります。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
発達障害の早期発見の精度を上げるため、小児保健研究会や関係機関と協議、検討を行い、健診時のマニュアルを見直します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	乳幼児発達相談指導事業(わいわい子育て相談)の拡充							掲載ページ
								183
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局
		26,261	千円	28,117	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課
								子ども家庭局
								子育て支援課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	心身の発達が気になる乳幼児について、医師・臨床心理士・保育士等がチームで相談に応じ、保護者の育児不安に対応することで、発達障害等を早期に発見し、乳幼児の健全な発達を支援します。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	親子を対象にした遊びや相談に応じる教室を実施し、子どもの発達を促すとともに、親の育児不安の軽減に繋がります。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】	
	わいわい子育て相談の実施回数		104 回	168 回	105 回	62.5 %	大変順調
	発達に気になる子どもを早期に発見し、親子を支援するために相談体制の充実が必要です。 (最終目標と最終年度)						
	わいわい子育て相談の参加者数		349 件	増加	366 件	順調 やや遅れ 遅れ	順調
発達相談の中で気になる子どもを早期に発見し、支援するために相談体制の充実が必要です。 (最終目標と最終年度)							

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害を早期に発見し支援することは、子どもの健やかな発育を促し、保護者の不安の軽減や様々な問題を予防することができます。早期発見及び早期支援体制の強化が求められていることから、回数の拡充や関係機関との連携を強化する等、事業の充実が必要です。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	医療関係者等の専門職が実施していることから、これ以上のコスト削減は困難です。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
発達障害を早期に発見し支援することは、子どもの健やかな発育を促し、保護者の不安の軽減や様々な問題を予防することができます。発達に気になる乳幼児が増加傾向にあり、早期発見及び早期支援体制の強化が求められていることから、回数の拡充や関係機関との連携を強化する等、事業の充実が必要です。発達に気になる乳幼児を早期に支援するために、相談事業の拡充や連携体制について、関係機関と協議し、効果的な事業の推進を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	親子通園クラスの設置						掲載ページ		
							183		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		1,276	千円	2,395	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	保育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	直営保育所へ新たに「親子通園クラス」を設置し、発達の気になる子どもを保護者とともに受け入れ、保育所での遊びや体験、相談を通じて継続した支援を行います。また、直営保育所と保健、医療、福祉の関係機関が連携しながら、児童の保育所、幼稚園などへの移行を支援します。					
活動計画	今年度は新たに、小倉北区の東篠崎保育所で親子通園クラスを設置し、事業を開始します。						活動実績 活動結果は下記のとおりです。
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】	
	親子通園クラスの設置施設数						
	親子通園クラスを設置し、発達に不安のある児童や育児に不安のある保護者を親子で受け入れ、遊びや相談等を通じて、保育所や幼稚園、療育機関等への移行支援を行います。 （最終目標と最終年度）平成26年度までに7か所	1 施設	2 施設	2 施設 100.0 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	（最終目標と最終年度）				順調 やや遅れ 遅れ	順調	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	新たに小倉北区の東篠崎保育所において親子通園クラスを設置し、遊びの提供や保護者との懇談を行い、発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者に対し、継続した支援を行いました。黒崎保育所はのべ73組、東篠崎保育所はのべ31組の親子が利用しました。 通園利用世帯に対して実施したアンケートで、利用者の満足度は100%でした。また、次年度の移行先が決定した世帯も67%を超え、移行支援としての成果も出ています。 全国的にも例のない事業です。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	直営保育所の経営資源を活用することでコストを抑えるとともに、利用料として1世帯あたり月に4,000円を徴収しています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
実施している2か所について検証していきながら、関係機関との連携、事業のPRを行い、発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者に対して、継続した支援を行います。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	専門機関との連携による保育所での発達支援の充実						掲載ページ		
							183		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		—	千円	—	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	保育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	保育所と、「子ども総合センター」「総合療育センター」など専門機関との連携を強め、保育所に通うLD、ADHD、高機能自閉症のある子どもなどへの支援の拡充を図ります。特に今後の課題として、保育所における対応のあり方、専門機関との役割分担、保護者への支援のあり方等について検討を深め、支援に取り組みます。				活動実績	個別支援計画を作成し、障害児とその保護者支援を行う。 職員の資質向上のための取り組み ・研修の充実 ・施設見学・実習の実施	
活動計画	専門機関と連携して、発達障害児やその保護者への支援に取り組みます。							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】	
	専門機関と連携した発達障害児の支援					大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	子ども総合センター・総合療育センター・障害福祉センター等専門機関と連携し、発達障害児の支援の拡充を図ります。 （最終目標と最終年度）							
	保護者支援の取り組み					順調	順調	
専門機関などの支援を受けながら、個別の支援計画を作成し、これを基に保育所と家庭がそれぞれの生活状況を伝え合うことで、共理解を深め、保護者の悩みなどを支えます。 （最終目標と最終年度）					やや遅れ 遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	子どもの発達相談や保育への個別支援、研修などを通して、支援に取り組みました。一人ひとりの障害はさまざまであり、その状態も多様であるので、障害のある子どもの保育にあたっては、専門機関と連携する機会を多く持つことが重要で、有効性は高いと考えられます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	市の規定に基づく専門講師や既存施設を活用し、合理的に実施していきます。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
今後とも専門機関との連携を深め、保育所における対応のあり方など研修を通して、発達障害のある子どもへの支援の充実を図ります。関係機関との連携を図ると共に、保育士を対象に発達障害への理解を深め、支援できるよう研修会を実施します。また、発達障害児に関わる他局と連携し、職員間での交流を図り、一環した支援を行える体制作りに取り組みます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	「発達障害者のためのサポートファイル」普及事業						掲載ページ		
							184		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		835	千円	930	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	発達障害の理解を促進するとともに、ライフステージにおける一貫した支援を推進するために、保護者をはじめ、学校や医療機関などに対して、「発達障害者のためのサポートファイル」の普及を図ります。				活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	保護者や教育関係機関の職員等に対する説明の機会を設けて、サポートファイルの有効性をPRします。また、アンケート等を通じて利用者のニーズに沿った改善を図ります。							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】		
	「発達障害者のためのサポートファイル」発行部数		1,500 部		200 部	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	「発行部数」の増加が、発達障害者への普及の判断基準となるため、成果指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）						順調	
					やや遅れ			
				遅れ				

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	サポートファイルを発行し、各関係機関へ普及活動を行うことで、着実にサポートファイルが浸透しています。本事業は、ライフステージを通じた支援を円滑に行うためには重要な事業であり、発達障害者の支援の充実には必要不可欠な事業です。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	サポートファイルを作成する際、より経済的な業者を選定し作成します。また、利用者アンケートなどをもとに、サポートファイルをより充実した内容とします。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
ライフステージを通じた一貫した支援を行うため、「発達障害者のためのサポートファイル」の普及は必要不可欠なことから、今後も継続して実施します。教育関係機関等を中心に、説明会を行い有効性をPRするなど、広報活動を積極的に行うことにより、小中学校との連携強化を通じた更なる支援の充実を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	発達障害者総合支援事業						掲載ページ		
							184		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		731	千円	642	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	乳幼児期から成人期までの一貫した支援を行うために、医療・保健・福祉・教育などの関係機関が連携し、発達障害に関する市民啓発を実施するなど、各種サービスの充実を図ります。			活動実績 活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	広く一般市民を対象に、発達障害に関する理解と認識が深まるようなシンポジウムを開催します。また、発達障害啓発週間を広報するため、街頭啓発等のイベントを行います。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】	
	街頭啓発やシンポジウムの開催	1	回 す つ	1	回 す つ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	街頭啓発やシンポジウムの開催は、発達障害に関する普及啓発の判断基準となるため、成果指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）					
（最終目標と最終年度）				順調 やや遅れ 遅れ	順調	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	計画通りに進んでいます。発達障害に対する普及啓発を図るためには重要な事業です。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業は、発達障害に関して専門的な知識を持った事業者に委託しており、経済性及び効率性に配慮した事業展開を図っています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
家族会との意見交換やイベントの効果検証などを通じて、より効果的な普及活動を検討し、実施することにより、発達障害に対する理解と認識がさらに深まっていくことを目指します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	総合療育センター等の専門スタッフの派遣						掲載ページ		
							184		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		67,706	千円	72,114	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	保育所や幼稚園、放課後児童クラブ等に「総合療育センター」や「発達障害者支援センター」から専門スタッフを派遣し、指導・助言を行うとともに、保育士等の職員研修を充実することで、障害のある子どもの特性やかかわり方の理解を促進します。				活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行います。							
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)		【活動の状況】	
	発達障害者支援センター及び地域支援室の指導実施件数		191 件	-	163 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)						順調	
	(最終目標と最終年度)				遅れ			

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 指導件数は毎年増加し、本事業利用者を順調に伸ばしています。総合療育センターは、本市の障害児療育・支援の中核施設であり、また、総合療育センター等の専門スタッフによる保育所等職員の育成は、より多くの相談者の福祉向上、問題解決を効果的に実施することができることから市民の総合療育センターの機能充実に対する期待は大きいと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 指導を実施しているのは障害福祉に関して知識・経験を十分に有する職員であり、他の職員では同じ成果を得ることができません。また、総合療育センターは指定管理者制度を導入し、経済的・効率的な運営を行っております。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること

保育所や幼稚園などにおいても障害のある子どもが在籍しており、保育所等の職員の資質向上が必要であるため、専門スタッフによる指導事業引き続き実施します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	総合療育センターの機能の強化						掲載ページ		
							184		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		2,769	千円	3,099	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	医師をはじめ臨床心理士などの専門スタッフの充実等を図るとともに、「総合療育センター」の地域支援室による地域の保育所、幼稚園や通園施設等への支援の強化や市西部地区の障害のある子どもの支援について検討します。（総合療育センターは指定管理者が運営）				活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	医師確保に向けて大学医局への働きかけ等、必要な支援を行うとともに、機能強化に向けた取組みを継続します。							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）			前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】	
	施設一般指導事業実施件数			177 件		151 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児（者）の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）							
							順調	順調
（最終目標と最終年度）						やや遅れ 遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	医師確保に向けて、大学医局への働きかけ等必要な支援を行っています。また、指導事業の利用者についても順調に増加しています。総合療育センターは、本市の障害児療育・支援の中核施設であり、また、総合療育センターなどの専門スタッフによる保育所等職員の育成は、より多くの相談者の福祉向上、問題解決を効果的に実施することができることから市民の総合療育センターの機能充実に対する期待は大きいと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	指導を実施しているのは障害福祉に関して知識・経験を十分に有する職員であり、他の職員では同じ成果を得ることができません。また、総合療育センターは、指定管理者制度を導入し、経済的・効率的な運営を行っています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
総合療育センターは、本市の障害児療育・支援の中核施設であり、機能強化に向けた取組みは今後も必要と考えます。また、指導事業においても、保育所等の職員の資質向上に有効であるため、今後とも継続的に実施します。さらに、総合療育センター再整備に向けた検討を行います。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成23年度実績評価）

事業名	医療機関との連携強化						掲載ページ		
							184		
コスト	事業費	平成23年度執行額		平成24年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		814	千円	936	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	医療従事者を対象とした研修会などを実施し、発達障害に対する理解を促進します。			活動実績 活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	医療従事者のニーズに留意しながら、発達障害児・者の診療に関する研修会などを開催します。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】
	研修の受講者数		51 人		70 人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	発達障害の理解を促進するには、医療従事者が研修を受講することが必要であるため、「研修の受講者数」を活動指標として掲げました。 （平成23年度は原則として、前年度以上を計画しています）					
	（最終目標と最終年度）					大変順調
（最終目標と最終年度）					順調 やや遅れ 遅れ	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	前年度実績を上回りました。また、アンケート結果によると、受講者には高い満足を得ています。本事業を実施することで、発達障害に対する理解を深め、発達障害の診断等を実施できる医療機関が増加するとともに、発達障害者支援センターとの連携強化を図ることができるため、効果は高いと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業は、発達障害に関する高い専門知識や経験を積んだ事業者者に委託しており、経済性及び効率性に配慮した事業展開を図っています。

【Action】 目的実現のために平成24年度以降に実施すること
医療の現場においても、発達障害者に適した対応が求められていることから、今後とも継続して実施します。今後とも、研修の内容を充実し、受講者の満足を得られるような研修とします。